

学校名	福島県南会津郡只見町立朝日小学校
授業者	七見 和宏

1. 単元計画

1-1. 単元名

只見町の自然博士になろう

1-2. 学年

第3学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

第3学年の総合的な学習の時間のテーマは「只見の自然博士になろう」である。

本単元は、自分たちの身の回りに存在する只見の豊かな自然について探究することで、只見の自然環境の素晴らしさや豊かな生態系の維持について理解を深めていく単元である。只見の自然環境の中心は、ブナの天然林であり、世界自然遺産に登録された白神山地よりも広大な面積を誇っている。ブナの実は多くの生き物の食料となり、葉は小さな生き物たちに分解され腐葉土の層を形成し、水を濾過・貯水するはたらきをし、森で蓄えられた栄養が流域の土地、そして海を豊かにしている。また、先人たちもブナの森の恵みを受け、森を守り、育て、共に生きてきた。単元における追究活動を通して、そのブナの森を中心とした只見の自然環境の素晴らしさに気付き、実感することで、只見愛を育成することができる単元である。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

○単元のねらい

只見の自然に直接触れ、体験することで、その素晴らしさや自然環境の変化を知り、大切にしようと思えることができる。

○単元設定の理由

（1）児童の実態

昨年度は、生活科の学習を通して、朝日地区の「人・もの・こと」に触れさせてきた。町探検において町の人のために生き生きと働く人たちの姿を肌で感じさせたり、ヤゴを捕まえてトンボになるまで観察することで身近な自然に目を向けさせたりしながら、只見愛の育成を図ってきた。

今年度から総合的な学習の時間がはじまり、子供たちは「只見の自然博士になろう」のテーマのもと学習に取り組んでいる。課題設定1「只見には、どのような自然があるのだろうか」では、生活科の学習や生活経験を想起させながら学習計画を作成し、只見学ガイドブックをもとに、只見の自然や動植物の特徴について調べ、只見の自慢カードにたくさんまとめることができた。また、「恵みの森」に入り、ガイドの方の説明を聞きながら、学校の周りでは見られないような動植物の様子に気づき、只見の自然の素晴らしさを感じ始めている。

(2) 指導観

子供たちは、只見ガイドブックをもとに只見の自然について調べる活動やブナセンターの見学活動、恵みの森の探検活動を通して、学校の周りの様子との違いに目を向け、只見の自然環境についての知識を増やしなが、只見の自然の素晴らしさを少しずつ感じ始めている。

そこで、本時では、「恵みの森」の探検から発見したことや学んだことを黒板に掲示させ、「動物」「昆虫」「植物」などに分類整理しながら、学校の周りでは見られない只見の自然環境の素晴らしさへの気づきを再確認させる。その上で、これまでの生活経験や生活科での学び、さらには理科「昆虫の育ち方」や「植物の育ち方」との関連を図り、季節が変わっていくと森の様子はどのように変化していくか予想を立てさせ、さらなる追究への意欲を高めたい。



また、より一層只見の自然環境について理解を深めるために秋の「恵みの森」の探検活動を、異なる視点から追究させるために「下福井の森」の探検活動を課題設定2の主たる追究活動としてそれぞれ位置づけていく。



さらに課題設定3においては、只見町が誇る「ブナの天然林」に着目させ、ブナの生態や育ち方について、じっくりと追究する場を設けていきたい。ブナの天然林の素晴らしさについて追究しまとめさせることで、「只見の自然博士」としての自信をより一層もたせていきたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

「夏の恵みの森」で発見したことを分類整理させ、「秋の恵みの森」の様子について、生活科や理科の学習を生かして変化を予想する活動を通して、新たな問いをもち、追究への意欲を高め、主体的に学ぶ態度を育成する。
 <問題を発見する力>

1-7. 単元の展開 (全36時間)

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 ~ 5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1・2年生の学習や生活経験を想起し、只見にどのような自然があるのかを話し合う。(3) ○ どのようにして調べていくのかを話し合い学習計画を立てる。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・ 只見学ガイドブックで只見の自然を調べてみよう。 ・ 恵みの森を探検したりブナセンターに行ったりして調べてみよう。 	<p>地域の自然環境に関する情報を比較して、環境の特徴をとらえることができる。(知識及び技能)</p> <p style="text-align: center;"><言語スキル・数量スキル></p> <p>イメージマップをもとに、問いをもち解決の方法を考えることができる。(思考力・判断力・表現力等)</p> <p style="text-align: center;"><問題を発見する力></p> <p>自分の考えを伝えるとともに友達のを聞き、自分の考えを深めたり、更に活用したりすることができる。(思考力・判断力・表現力等)</p> <p style="text-align: center;"><コラボレーション力></p> 

<p>6 ～ 31</p>	<p><課題追究1> ○ 図書室や本(只見学ガイドブック)を活用し、只見の自然や動植物の特徴について調べる。(5)</p> <p>○ 田子倉湖でのボート体験を話し合い、発見したことをカードに整理する。(3)</p>  <p><課題追究2> ○ 恵みの森に入り、只見の自然や動植物について調べる。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドの方の説明を聞き、質問する。 <p>○ 恵みの森で発見したことをカードや新聞にまとめる。(5)</p> <p>○ ブナセンターを見学する。(2)</p> <p>○ 恵みの森に入り、只見の自然や植物について調べ、発見したことをカードにまとめる。(5)</p>  <p>○ 恵みの森での探検を通して、発見したことを整理し、もっと知りたいことを話し合う。(2)</p> <p>【本時1/2】</p>	<p>只見の自然、資料、学芸員などを活用して、情報を集めることができる。(知識及び技能) <言語スキル・数量スキル></p> <p>只見の自然、資料、学芸員などを活用して、情報を集めることができる。(知識及び技能) <言語スキル・数量スキル></p> <p>集めた情報を分類整理して、必要な情報を選び課題追究に生かすことができる。(思考力・判断力・表現力等) <問題を解決する力></p> <p>解決のために、地域の人やゲストティーチャーなどに質問することができる。(学びに向かう力・人間性等) <問題を解決する力></p> <p>地域の自然環境に関する情報を比較して、環境の特徴をとらえることができる。(知識及び技能) <言語スキル・数量スキル></p> 
<p>32 ～ 36</p>	<p>○ 学習したことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習した内容を模造紙や、レポートにまとめる。(4) ・ 学習した内容を共有する。(1) 	<p>調べたことや考えたことを、自分の言葉で分かりやすく表現できる。(思考力・判断力・表現力等) <プレゼンテーション力></p>

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ


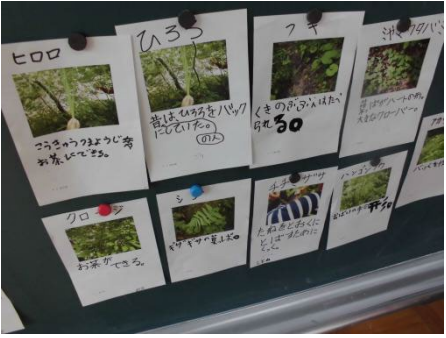
単元 36 時間中の 30 時間目

2-2. 本時の目標

恵みの森で発見したことをもとに、これからの恵みの森の様子について、生活科や理科の学習をいかして予想し、さらに調べてみたいことを見つけることができる。

(思考力・判断力・表現力等) <問題を発見する力>

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / ◇評価の視点 (方法)
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「夏の」恵みの森と「秋の」恵みの森のちがいを考えてみよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 恵みの森探検の写真を提示し、学習内容を想起させる。 ○ 座席を扇形(半円形)に設置し、話し合い活動が活性化できるようにする。【場づくり 空間的構成】 ○ 学習のめあてと学習の見通しをもたせることにより、最終的な目標・到達過程を確認する。 【場づくり 心理的構成】
<p>2 恵みの森で発見したものを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きなブナの木があったよ。 ・ ホオノキの葉っぱは大きかったな。 ・ 土が何だかふわふわしていたな。 ・ アブラチャンは、レモンのようなにおいがしたよ。 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 恵みの森で発見したものをカードに書いておく。 ○ カードには、発見したものの名前と特徴が伝わる言葉を書いておき、それを伝えながら黒板に貼らせていくことで、分類整理できるようにする。 ※ 恵みの森での発見をKJ法によって分類・整理し、「動物」「植物」「虫」「実」などの見出しを付け加えることで、学校の周りでは見られない只見の自然環境の素晴らしさへの気づきを再確認させる。 【見える化】 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>
<p>3 これから恵みの森がどう変化していくか予想する。</p> <p>(1) イメージマップを各自作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の周りの木と同じように葉っぱが、黄色や赤に変わるんじゃないかな。 ・ 葉っぱが緑のままのものもあったよ。 ・ 昆虫の卵は、幼虫⇒さなぎ⇒成虫に変化するんじゃないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 恵みの森をキーワードとしたワークシートを準備し、生活経験や生活科、ブナセンター見学、理科での学習をもとにこれからの恵みの森の様子を予想させる。 ○ 考えの根拠になるものも明記させ、理由をつけて話し合うことができるようにする。



(2) 予想を話し合う。

- ・ 葉っぱは、全部落ちちゃうんじゃないかな。
- ・ ヤゴは、さなぎにならないで成虫になるから、そういう昆虫もいるかもね。
- ・ 恵みの森の昆虫も、頭・むね・はらになっっているんじゃないかな。



○ 理由をもとに話し合わせることで、考えの根拠を明確にする。

※ これまでの生活経験や生活科での学び、さらには理科「昆虫の育ち方」や「植物の育ち方」との関連を図り、季節が変わっていくと森の様子はどのように変化していくか予想を立てさせ、関連する語句やイメージを繋げて記入していくことで、それぞれの考えを整理して可視化し、全体での共有に活用できるようにする。 【ライブレコーディングの活用】

○ 理科の学習を想起させる発問を工夫し、「種から花を咲かせ、実になっていく様子」「卵から幼虫、さなぎ、成虫になる過程」等を捉えさせ、植物や昆虫の成長のきまりや体の様子にも目を向けさせたい。

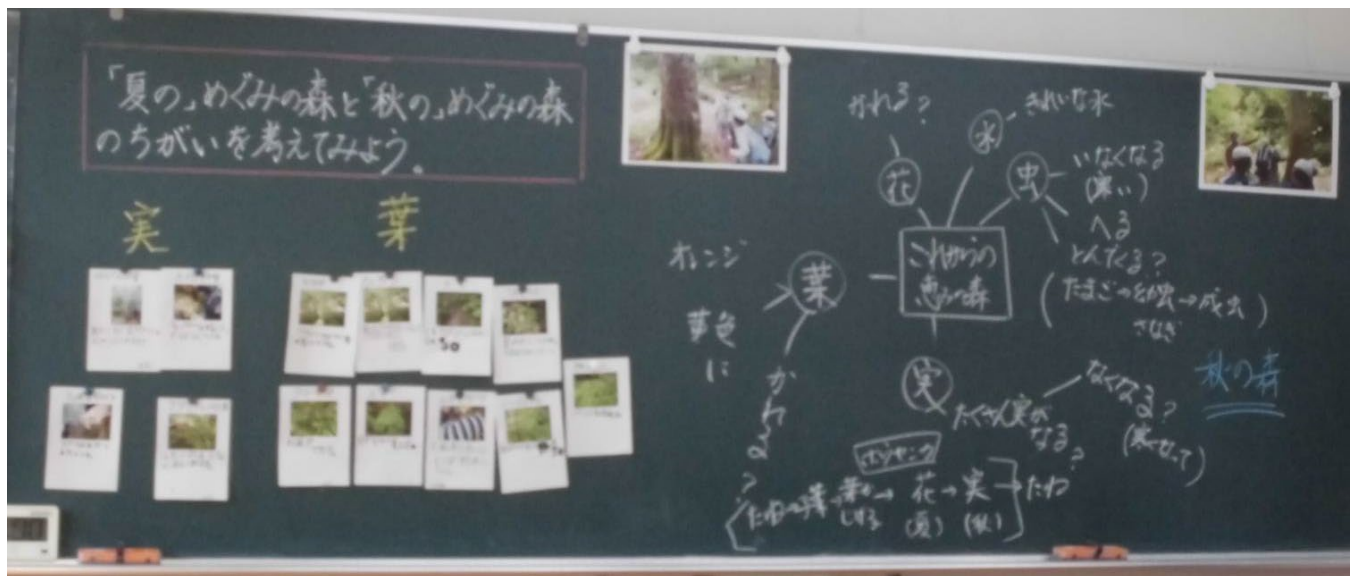
4 本時の学習を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。

○ 本時の学習の感想を発表させ、振り返りの場をもたせる。

○ 次時では、本時で出てきた問いを整理し、解決の方法を話し合っていくことを伝える。

◇ これからの恵みの森の様子を考える中で、新たな問いをもつことができたか。 (発言)

<問題を発見する力>



3. 今回の活動の自己評価

- 4回にわたる森への探検活動(恵みの森3回・下福井観察の森1回)や地域の資料館(ブナセンター)での学習活動, 地域人材の活用(森の探検ガイド)等, 地域の自然の良さに触れる機会をたくさん設けてきたことで, 児童に只見愛を育むことができた。
- KJ法を活用して分類整理する中で, 秋の恵みの森の観察活動の視点への焦点化が図られた。
- これまでの生活経験や生活科での学び, さらには, 理科「昆虫の育ち方」や「植物の育ち方」との関連を図り, 季節が変わっていくと森の様子はどのように変化していくか予想を立てさせ, 関連する語句やイメージを繋げて黒板に記入していくことで, それぞれの考えを整理して可視化し, 全体での共有に活用することができた。
- 既習事項を踏まえながら, 子供たちが自分の考えを積極的に伝え合うことができていた。

4. 今後の課題

- 森の観察だけでなく, ブナの生態や葉の特徴など, よりブナに焦点をあてて, 追究することでブナの天然林のすばらしさや魅力に迫る展開も考えていく必要がある。
- 今回は, 夏と秋の森の探検を行ったが, 春の森の探検活動も組み入れ, ブナ林の四季の変化を感じ取らせ, 只見愛のさらなる育成を図っていきたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 自然と直接ふれ合う機会をできるだけたくさん設け, 児童の興味・関心を高めることが必要である。また, 発見したことや気づいたことを話し合う場から, 新たな問いを見つけ出し, 問いの連続性を持たせることで追究への意欲を高めさせることが必要である。